「訴訟・判決を受けて」

川村雅則・北海学園大学准教授

タクシー賃金問題に詳しく、現地で賃金裁判の行方を注視する川村雅則・北海学園大学准教授にタクシー賃金構造が抱える問題点について論評してもらった。

◆ 一般の産業では、労働時間管理が行われ、所定以上の労働に時間外手当、深夜に働けば深夜割増がつく。だが、タクシーの世界はそうではない。今回の訴訟と判決内容から、かつて、そういう世界を対象に労働研究を始めた頃の疑問等を出した（その頃はまたA型、AB型賃金も珍しくはなかった）。

例えば、タクシー労働者の収入は稼ぎ次第というの是一般論として理解できたが、労働時間は反映されないのか、日中の稼ぎも時間外・深夜割増がつくはずの時間帯の稼ぎも同じ扱いなのか、内訳が明確に区分されず所定外分を組み込んだ「基本給」はあり得るのか、いやそもそもこの業界では労働時間管理は行われてい

ないのか、などの疑問だ。もちろん、それなりに営業収入があったときには、労働時間管理や時間外手当の支給などは、労使ともに等閑視できていたのだろう。下手に主張すれば、所定の時間で仕事をあがるよう命じられ、ほされてしま

うおそれもあった。だが、バブル崩壊後の需要低下に加え、規制緩和で増車競争が始まった。弾力的な賃金・労働条件が野放図な増車に拍車をかけた。もし適正な労働時間管理が行われ働いた分だけ賃金が支給される（一般産業のよ

うな）状況下であれば、こんな増車競争は不可能だったろう。また、公共交通の担い手なのだから、本来的には厳選採用で教育訓練をほどこすべきところを、誰彼構わず採用し、有期雇用とオール歩合制賃金で「管理」するやりかたもぞうだ。いまや、最賃分の受け取りを放棄する誓約書を乗務員に書かせたり、客待ち時間を労働時間からカットしたり、どん底に向かった競争がとまらない。今回の判決は、未払い分の支給にとどまらず、違法状況が黙認されてきたこの業界で、タクシー事業や賃金・労働条件の将来をどう描くのか、その検討作業を労使双方に促しているといえよう。

この難局を業界はどう乗り越えるのか。よもや、労働者側の受け取る分配率を極端に切り下げることで時間外等の原資をひねり出すというのであれば、業界はますます疲弊し、特措法など社会からの賛同も消えてしまっただろう。個別の労使の枠を超えた課題である。政労使がそろったせつかくの地域協議会が活用されることを強く願う。

一般の産業では、労働時間管理が行われ、所定以上の労働に時間外手当、深夜に働けば深夜割増がつく。だが、タクシーの世界はそうではない。今回の訴訟と判決内容から、かつて、そういう世界を対象に労働研究を始めた頃の疑問等を思い出した（その頃はまだA型、AB型賃金も珍しくはなかった）。

例えば、タクシー労働者の収入は稼ぎ次第というのは一般論として理解できたが、労働時間は反映されないのか、日中の稼ぎも時間外・深夜割増がつくはずの時間帯の稼ぎも同じ扱いなのか、内訳が明確に区分されず所定外分を組み込んだ「基本給」はあり得るのか、いやそもそもこの業界では労働時間管理は行われていないのか、などの疑問だ。

もちろん、それなりに営業収入があったときには、労働時間管理や時間外手当の支給などは、労使ともに等閑視できていたのだろう。下手に主張すれば、所定の時間で仕事をあがるよう命じられ、ほされてしまうおそれもあった。

だが、バブル崩壊後の需要低下に加え、規制緩和で増車競争が始まった。弾力的な賃金・労働条件が野放図な増車に拍車をかけた。もし適正な労働時間管理が行われ働いた分だけ賃金が支給される（一般産業のような）状況下であれば、こんな増車競争は不可能だったろう。また、公共交通の担い手なのだから、本来的には厳選採用で教育訓練をほどこすべきところを、誰彼構わず採用し、有期雇用とオール歩合制賃金で「管理」するやりかたもそうだ。

いまや、最賃分の受け取りを放棄する誓約書を乗務員に書かせたり、客待ち時間を労働時間からカットしたり、どん底に向かった競争がとまらない。今回の判決は、未払い分の支給にとどまらず、違法状況が黙認されてきたこの業界で、タクシー事業や賃金・労働条件の将来をどう描くのか、その検討作業を労使双方に促しているといえよう。

この難局を業界はどう乗り越えるのか。よもや、労働者側の受け取る分配率を極端に切り下げることによって時間外等の原資をひねり出そうというのであれば、業界はますます疲弊し、特措法など社会からの賛同も消え去ってしまうだろう。個別の労使の枠を超えた課題である。政労使がそろったせつかくの地域協議会が活用されることを強く願う。